

電子複写不可

0780

マイクログラフ作成済

自昭和二十年三月二十日  
至昭和二十年六月二十日

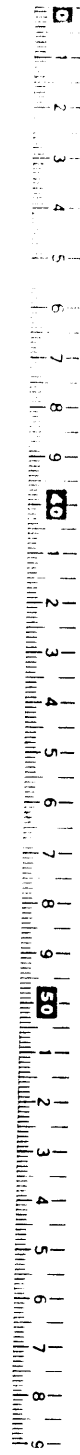
天一號航空作戰戰鬥詳報附録(其三)

昭和二十年七月三十一日  
第八飛行師團司令部

は 255

(5) 本土周辺 30

本



所  
飛  
行  
部  
同  
令  
部

は  
255

目次

其三

附錄 第二

附錄 第三

主要時期ニ於ケル天氣圖  
作戰間ノ天氣經過表  
日出月没表  
戰訓集錄

附錄 第三

主要時期ニ於ケル天氣圖

作戰間天氣經過表

三、四、五、六、日出月没表

附錄第三

戰訓集錄

天號作戰  
間ニ於ケル

と號部隊運用並ニ戰鬪ニ關スル戰訓

緒言

本戰訓ハ當師團ノ天號作戰開始以來概ネ一ヶ月半  
巨ル戰鬪間ノ戰訓ヲ收録シタルモノニシテ内容固ヨリ檢  
討ノ餘地多クモ緊迫セル戰局下戰訓ノ迅速ナル活用  
ニヨリ次期作戰ニ資スルノ要アルヲ認メ取敢ス印刷  
配布セルモノナリ

第一と號部隊運用ニ關スル戰訓

一 奇襲強襲

其ノ一ト號部隊運用ノ要則

ト號部隊ノ攻撃ハ奇襲攻撃ニ徹底セザルベカラス強襲左ノ理由ニヨリ多クノ場合有利ナラス

ノ優勢ナル敵ノ二重三重ノ警備ヲ突破ニ必要ナル直掩又ハ間掩戦闘隊ヲ隨伴進攻スルコトハ多クノ場合望ミ得ズ

ノ直掩間掩戦闘隊ハ特攻隊ノ遲鈍ナル行動ニ制肘セラレ又自ラノ増裝等ニ依リ戦闘隊本然ノ

能力發揮ハ困難ナリ

ト特攻機獨力ヲ以テスル強襲ハ空中勤務者ノ伎倆特攻機ノ性能重裝備等ノ關係上無謀ナリ

ナリ

ト多數機ノ進攻ハ敵ノ電探又ハ各種監視網ニ過早ニ捕捉セラレ敵ニ對應ハ策ヲ講セシムルノ不利アリ

註 師團ハ徹頭徹尾小數機ノ特攻隊ヲ以テ奇襲攻撃ヲ行ヒ其ハ大部ハ成功セリ

二ノ號部隊ノ編成

一 攻撃隊ノ編成ハ特攻機三乃至五機誘導兼戦果確認機(特攻ヲ兼スルコトアリ)一機ヲ可トス理由

ノ奇襲的行動容易

二 敵ノ制空下ニ於テモ出動準備可能ナリ

三 離陸 空中集合 航進 其他ノ行動ヲ輕捷

機敏ナラシム

四 地上準備時ニ出動準備ヲ迅速確實ナラシメ得

五 器材的準備時ニ飛行機ノ整備豫備機ノ準備

等ニ有利ナリ

註

一 新田原飛行場ヨリ出發セシ試ニ六、ニ七、ニ八

飛行隊ノ一隊ノ機數ハ概ネ八乃至九機ニシテ

出發ニ方リ相當ノ混亂ヲ生シタルノミナラズ

空中集合ニモ又多クノ時間ヲ費シタリ

二 臺灣ニ於テハ空襲終了後ヨリ準備ヲ開始シ

テ通常四乃至六機ヲ出動セシメタルカ 宮古

三ノ號機ノ裝備

石垣 飛行場ニ於テハ敵ノ制空下ニ於テモ  
其ノ間隙等ヲ利用シニ乃至三機ノ特攻機  
ヲ出動セシメ得タリ

ノ先島諸島ノ使用制扼セラルニ伴ニ戦闘機

練習機ヲ主體トスル師團ハ各種ノ爆裝及燃料

増槽ヲ實施セリ其ノ概要附表ノ如シ

ノ爆裝増槽實施上ノ注意スヘキハ机上ニ於テ一應心

適當ナリト判断セル事項ト雖モ各種ノ條件ニ

依リ實施上ニ於テ不適當ナルコト多クヲ以テ速カ  
ニ實地ニ試驗スルヲ要ス

註

ノ燃料消費量ト號空中勤務者伎倆ノ必スシモ

良好ナラサルコト飛行機重量ノ増加編隊航進

等ニ依リ著シク増如ス 特ニ使ヒ古シノ練習機

ノ如キハ極端ニシテ各機毎ニ綿密ナル試験ヲ必

要トス

ス各種裝備ニ依ル速度ノ低下特ニ航路上ニ



於カレ風向風速ニ基ク對地速度ノ増減ハ前  
號ト相俟ツテ爆裝増槽ノ因果關係及用兵上  
考慮ヲ要スル事項ナリ

四 秘匿飛行場ト發進飛行場

特攻機出動待期間ニ在リテ飛機ハ徹底的分散  
避敵可能ナル秘匿飛行場ニ配置シ出動ニ方リ前  
日薄暮又ハ當日拂曉迄ニ發進飛行場ニ移動シ  
出動ヲ準備スルヲ可トス又發進飛行場ハ敵襲ノ  
顧慮少ク且滑走路其他ノ素質良好ナルモ

ノヲ選定スルヲ要スコレ最大限度ニ重裝備セル  
特攻機ヲシテ整齊ニ離陸セシムルコトハ空中集合及  
爾後ノ行動ヲ確實ニ容易ナラシムル所以ナルナリ  
但シ飛行場ノ素質ニヨリテ一飛行場ニ於テ兩目的  
ヲ達成スルコトアリ

註 九州ニ在リテハ誠ニ六三三七三ニ飛行隊ハ秘匿  
飛行場トシテ熊本ノ各飛行場ヲ發進飛行場トシ  
テ新田原飛行場ヲ選定セリ  
又臺灣ニ於テ臺中ヨリ出發セシ誠飛行隊ハ臺中

東飛行場ヲ秘匿飛行場トシ臺中中飛行場ヲ  
 發進飛行場トシテ選定シ共ニ敵機ノ防害全然  
 ナク且整備月ニ出動セシメ得タリ 此ニ反シ德ノ高  
 宮古 石垣等ヲ發進飛行場トセシ特攻隊ハ敵  
 機ノ防害ニヨリ出動ニ著シク困難ヲ感シ又ハ損害  
 續出シ出動不可能トナリシルモアリ

五指揮官(派遣幕僚又ハ指導官)ノ發進飛行場ニ於テ  
 ル特攻隊ノ指導特攻隊ノ出動ニ方リテハ指揮官ハ自  
 ラ又ハ幕僚或ハ指導官等ヲ派遣シ出動並ニ前後ノ

行動ニ關シ詳細懇切ニ指導スルコト絕對緊要ナリ

註當師團ニ在リテハ特攻隊出動ニ方リテハ多ク場  
 合其ノ發進飛行場ニ部隊長自ラ臨場シ又ハ幕  
 僚ヲ派遣シ現況ニ即シ出發航進攻擊要領  
 等細部ニ亘リ指導セリ

右ノ外各發進飛行場ニ其ノ飛行場ニ固是の指  
 導官ヲ常置シ各特攻隊出動準備及出動(離  
 陸空中集合)等ヲ懇切ニ指導スルノ要ニ痛感セ  
 リ之カ爲此種要員ヲ豫メ養成訓練シ遣フ

六 特攻隊員待機間精神指導

可トス 而シテ該要員ハ單ニ技術經驗ノミナラズ  
精神的ニ指導力ナル者ヲ選定スルヲ要ス

特攻隊員ハ特攻決行直前迄精神指導ヲ重視スルコ  
ト緊要ナリ之カ爲テ特ニ生活環境ヲ整理シ嚴肅ナ  
ル監督下ニ於テ節度アル生活ヲナサシムルノ要アリ

待期長期ニ及フニ從ヒ特ニ然リ特攻隊員ヲシテ低級  
ナル享樂ヲ追及セシメ又ハ旅館等ニ於テ放縱不仕態

ナル生活ヲナサシムルコトヲ以テ特攻隊員ヲ優遇セルカノ

如ク曲解セルモノ少カラズ

七 特攻隊待機間教育訓練

特攻隊員ノ素質ニ鑑ミ待機間ニ在リテモ教育訓練  
ヲ中絶セサルコト肝要ナリ 祖シテ飛行機ノ分散秘匿並  
ニ特攻機ノ損害防止ヲ多ク訓練期ハ拂曉薄暮ニ限  
定シ且機數ニ最少限度ニ止ムルヲ可トス

註 飛行機ノ分散秘匿及特攻機ノ損害防止ノ爲  
殆ト訓練ヲ中絶シ出發ニ方リ頗ル危險ナル離陸

ヲナセル隊アリ

其二 敵艦船攻撃

一 攻撃準備

イ 搜索

我が企圖スル攻撃時機ヲ考慮シ最新敵情並ニ  
氣象狀況ヲ收集セシムル如ク搜索ヲ部署スルコト  
肝要ナリ而シテ司偵隊ニ攻撃目的ニ鑑ミ搜索  
重點ヲ明示スルヲ要ス

註 高々度搜索ヲ以テ司偵搜索ノ唯一ノ方法ト  
思惟シ之ノミニ専念セシ爲艦船ノ區分搜索ヲナ

ロ 攻撃隊ノ部署

イ 特攻隊ノ誘導

編成スル特攻隊ノ誘導

確認機ヲ省略シ特攻隊長機ヲシテ誘導ス

ヲ兼ネシムルヲ可トスルコトアリ

註 師團ニ於テ以上ノ二方法ヲ採用シタルモ誘導

並ニ戦果確認機ノ歸還セルモノ少キヲ以テ誘導並ニ

戦果確認機ニ特攻ヲナシシムル方法ヲ用ヒ其ノ多

クハ成功セリ

乙 攻撃隊ニ掩護戦闘隊ヲ附セサルヲ可トスル場合多シ  
コレ奇襲成立上必要ナリ

註 師團ニ於テ特攻隊ハ多クノ場合獨力進攻ヲ  
實施セシメタリ

ハ 攻撃時機

特攻隊員ノ技術特ニ夜間洋上航法ノ能力未熟  
ナル者ヲ主體トスル隊ノ攻撃時機ハ薄暮(日没後二  
〇分乃至四〇分)時ニ選定スルヲ可トス

黎明時 好機時ニシテ其捕獲困難ニ夜間ノ

難陸上中集合航法ニ不利ナリ

洋上航法ハ月明時ト雖モ特攻隊員ノ精力未熟

ニ上無理ナルヲ以テ大部ハ薄暮攻撃ニ終始ニ其ノ

大部ハ成功シアリ

地上準備

ハ 飛行機ノ高度且徹底的分散秘匿ニヨル戦力ノ

ニ地上準備

温存施設敵、制空下ニ於テモ出動ヲ準備シ  
 其ノ制空ノ瞬間的間隙ヲ利用シテ瞬時ニ出動シ  
 得ルヲ發進飛行場ニ於ケル出動準備施設並ニ  
 情報ノ速達施設ハ特攻隊運用上絶對ニ必要  
 ナリ薄暮攻撃ヲ實施セントスル場合特ニ然リ  
 註

ノ師團ハ捷一號作戰準備以來概テ絛上ノ趣旨  
 ニヨリ秘匿飛行場ノ設定ト飛行機ノ高度分  
 散施設(飛行機整備位置、主滑走路ヨリ三

一 四軒離隔セシムノ完備出動準備位置  
 ノ遮蔽施設又ハ特掩體ノ設置情報組織ノ  
 完備ニ努ムル爲天號作戰ニ於テモ大ナ  
 ル支障ナク作戰ヲ遂行シ得タリ  
 二 發進飛行場ニ於ケル出動準備位置ノ設備  
 必スシモ完備シアラザル所アリテ出動前多ク  
 ハ三時間少クモ一時間早ク天空ニ暴露シ  
 テ危険ナル状態ニ於テ出動ヲ準備スルコト  
 屢々アリ又發進飛行場ニ於ケル出動準備

ニ 攻撃實施

イ 發進空中集合並ニ掩護

ノ 攻撃部隊ノ發進順序ハ誘導並ニ戰果確認機特攻機ノ順序トス

註

ノ 空室中ヨリ出發セシ誠ニ飛行隊カ誘導並ニ

戰果確認機特攻機ノ後ヨリ出發セシタルモ誘導機故障ニ因リ著陸シタルモ豫備機ニ棄換ヘ出發スルノ機ヲ逸シ爲ニ特攻機ノ空中集合及前進開始迄ニ多クノ時間ヲ空費セシ例アリ

ニ 八境ヨリ出發セシ誠ニ部隊ノ戰果確認機ヲ特攻隊ノ發進ニ先立チ餘祐ヲタモテ早ク出發セシタルヲ通信機故障ノ多ク誘導機ハ著陸シタルモ豫備機ニ棄換ヘ特攻機ニ追

及シ任務ヲ完フスルヲ得タル例アリ

2 空中集合ノ為ニハ各機ノ離陸間隔飛行経路  
空中集合高度集合點(著明ノ目標上空)空地  
連絡等ヲ離陸ニ先立テ各隊員<sup>細部</sup>ヨリ徹底  
セシメ置クヲ要ス

註 特攻隊員ノ伎倆未熟ナルタメ一部ノ者ヲ  
除ク多クハ十分ナル場合多シ其ノ原因ノ主  
ナルモノヲ擧ケレハ次ノ如シ

1 離陸間隔過大

2 離陸後ノ場周経路過大

3 索敵機眼令員弱ニシテ僚機ヲ發見シ得ズ

4 欠機アリタル場合前進ヲ開始スヘキ中止ス

ヘキ等空地連絡法ヲ講シテラサル為ニ空中

ニテ混雑状態ヲ呈セル場合アリ

5 出動準備發進並ニ空中集未合等ヲ修正齊

ナラシムル為ニハ掩護ノ處置ヲ講スルコト絶對

一ニ必要ナリ

註 敵機ノ顧慮大ナル場合ハ小數機ノ戦闘機



ヲ以テスルモ掩護ノ目的ヲ達シ特攻機カ克ク  
一沈著冷靜ニ行動シ出動ヲ整正前ナラシメタル例  
多シ

口航進及航進間ノ掩護並ニ誘導

航路ハ敵ノ警戒幕ヲ迂回スル如ク選定シ又  
時ニ之ヲ變更スルヲ要ス

註 新田原飛行場ヲ發進セシ誠三六、三七、三八  
飛行隊ノ航路ハ知覽徳之島ヲ通過スルコトナ  
ク其ノ邊カ西方洋上ヲ沖繩ニ進攻セシメタルカ如

又臺中ヲ發進セシ各特攻隊ハ全部一旦淡水沖

ニ前進セシメ石垣宮古島附近上空ニ達シ北

方ヲ沖繩ニ進攻セシメタルカ如シ

特攻隊攻撃ノ全經過ニ亘リ直掩ヲ要ス反シテ不利

ナル場合多クモ敵ノ電探ノ威力圏外ニ於テ而シテ敵ノ

哨戒機等ニ遭遇スルノ顧慮大ナル場合ニアリテハ發

進掩護ニ任シタル戰騷隊ヲ以テ航進間一部ノ掩

護ヲナサシムルヲ有利トスルコトアリ

註 臺中ヲ出發セル特攻隊ハ淡水基隆沖マテ

又宜蘭八塊等ヲ出發セシ特攻隊ハ宮古島  
北方洋上迄發進掩護機ヲ以テ掩護セシメタル  
コトアリ。

航進間ノ誘導

航進間ノ誘導ハ攻撃隊ノ分解開始點(船團ヨ  
リ五〇軒乃至一〇〇軒)迄誘導スルヲ通常トスル  
モ誘導機ニ戰果確認ヲナサシムルコトナク歸還  
セシメントスル時ハ高度降下點(敵ノ電探防害  
ノ多ク高度ヲ降下スル點ニシテ通常敵ノ電探豫

想位置ヨリ二五〇軒)附近迄誘導スルヲ可トス

註 船團特攻隊ノ多クハ攻撃隊ノ分解點迄誘導ヲ

八接敵法

狀況斷ス限リ超依空高度分解接敵ニ依ラシムル  
ヲ可トス

即チ敵ノ電探威力圏(二五〇軒)ニ入ルニ先タチ超  
依空(二〇〇米以下)ニ移行セシメ敵戦闘機ノ哨戒  
幕百軒圏ニ近接スルニ先タチ分解(間隙五乃至一  
軒ノ横隊又ハ距離ニ乃至三軒ノ單縱陣)シ高度五

○米ヲ以テ目標ニ近迫セシムルヲ可トス

註

ノ 師團ニ於テハ專ラ本方法ニヨリ大分ノ特攻隊  
ハ大奇襲ヲ成功シアリ

又 薄暮時ニ於ケル沖繩周邊ノ敵戦闘機哨  
戒高度ハ多クノ場合一〇〇〇乃至一五〇〇ナリ

ニ 突撃法

急降下突撃法ニ徹底スルヲ要ス之カ爲目標  
ノ一〇料附近ニ近迫セハ逐次高度ヲ上昇シツ

ソ索敵シ次ニ大撃セシムルモノトス

ホ 戦果確認

戦果確認機ハ攻撃隊ノ分解開始ト共ニ攻撃隊  
後方ニ移リ之ニ近ク跟随シテ前進シ戦果ヲ確認

セシムルモノトス

第二ト 號部隊戦闘ニ關スル 戦訓

其ノ一 攻撃準備

- 一 攻撃隊長ノ待機間ニ於ケル隊員ノ指導
- 二 攻撃隊長ノ待機間機會ヲ求メテ隊員ト共ニ飛

行場ニ進出シ自己塔乗機ノ整備ヲナスコト緊要ナリ

註 一般ニ隊長ニ其ノ指導力少ク隊員ト共ニ宿舎ニ漫然待機スルモノ多キハ遺憾ナリ

又航法準備ハ單ニ隊長機誘導機ノミナラス各機ノ塔乗者モ正確ニ實施スルノ要アリ

各機羅針盤修正モ亦同シ高度分解攻撃ヲ企圖スル場合ニ於テ特ニ然ハリ

註 僚機各種航法的準備不十分ナルモノ及其ノ

着意少キモノ多キハ指導上注意ヲ要ス

其二 攻撃實施

イ 發進及空中集合

離陸ノ爲メ出發線ニ於ケル飛行機ヲ滑走路ニ正對セシムルコトハ嚴守セシムルヲ要ス

註 重裝備ノ飛行機ニ拘ラズ輕平ニ出發線ニ就キ離陸スルヲ離陸開始直後ヨリ引懸ケラレ滑走路外ニ跳出シタルモノ又ハ離陸ヲ復行シ全般ノ出動ヲ混亂セシメタル例少カラス

離陸間隔、前方機カ浮上ルヲ目途トシ著シク延伸セザルヲ要ス

註 空中集合ニ著シク時間ヲ要シ且概シテ拙劣ナル集合ヲナスモノハ離陸間隔ノ延伸スルモノ多シ  
「フリップ」ヲ締ムル時機、過早ナルモノハ敷載スルヲ要ス

註 重裝備ヲ拘ラス低空ニテ「フリップ」ヲ締メ著シク危険ナル状態ヲ正セルモノアリ

々場周経路ハ過大ナラサルヲ要ス又常ニ前方機ニ

意シアルヲ要ス

註 場周経路過大ニシテ僚機ヲ見失ヒ又前方機ニ注意シテラサル為出勤準備ノ掩護數關疎ニシテ誤リ集合シタル為空中集合ノ時期ヲ失ヒ歸還著陸セル飛行機アリ

々空中集合中、各機ハ地上ノ布板信號ニ注意シアルヲ要ス

又空中集合不可能ナル飛行機モ過早ニ進攻ヲ断念著陸スルコトナク布板信號ヲ限リ速度ヲ増加

口航進並ニ誘導

シテ追及シ要スレハ獨斷進攻スルノ概アルヲ要ス  
註 空中集合十分ナラスニ主カニ稍々遅延シタル  
理由ヨ以テ過早ニ進攻ヲ斷念シ歸還セル特攻  
機アリタリ

ノ誘導機ト特攻機ノ隊長機ハ勉メテ海上ニ出スルニ先タ  
チ航法諸元ヲ確實ニ把握スルヲ要ス之カ爲發達  
當初ニアリテハ要スレバ目視ノ範圍内ニ於テ隊形  
ヲ疎閑シテ航法作業ヲ實施スルヲ要ス

ニ高度降下點ニ近ツクニ從ヒ漸次高度ヲ降下ス  
ルヲ要ス 此ノ際降下開始ニ先タチ燃料ノ増槽  
ノ「コック」切換ヘラ志レサルヲ要ス

註 九州方面ヨリ沖繩ニ出動セシ直協ノ特攻隊ニ  
機カ高度降下點タル沖永良部島附近ニ於テ不  
時着陸セルハ「コック」ノ切換ヘニヨルノ疑アリ

攻撃隊分解開始點ニ於テ誘導機ノ後方ニ移ル場  
合ハ旋回スルコトヲク速度ノ減却又ハ蛇行ニヨリ攻  
撃隊ノ直後ニ跟隨スルヲ要ス薄暮時ニ於テ動

モスレハ攻撃隊ヲ見失フ上慮アレハナリ

4 航進間連絡ハ特ニ必要ナル場合ノ外無線ヲ封止スルヲ要ス但シ攻撃隊ノ分解開始點ニ到着セル時ハ可襲概ネ成功セル所ニシテ爾後ノ指揮ニモ關係アルヲ以テ到達機點ト共ニ簡單ニ連絡スルヲ可トス

註 師團ニ於テ此ノ連絡ヲ勵行シ奇襲奏効ノ有無攻撃時刻ノ良否ノ判定ニ資スル所大ナリ

5 陸地ヨリ海上ニ出スルニ方リテハ別命ナク爆彈

ノ安全針ヲ拔脱スルヲ要ス

6 航進間眞ニ止ムヲ得サル理由ニヨリ歸還セサルハカ

ラサル飛行機ハ必ズ安全地帯(成ルヘク海上)ニ於テ

爆彈ヲ投棄シテ着陸スルヲ要ス

註 爆彈ヲ裝備セル儘歸還者陸スル者多クハ

ハ接敵

攻撃隊分解點ニ於テ隊長機分解ヲ命シ横隊ニ移ル時ハ稍ニ速度ヲサメ縦隊ニ移ル時ハ速度ヲ増加シ

ニ突進

テ迅速ニ隊型ヲ整フルヲ要ス

ノ攻撃開始點ニ移動シツ目標ヲ搜索シ所命目標ニ突入スルヲ要ス此ノ際目標ノ選定ニ注意シ躊躇後巡スルコトアルハカラス

註 出發前攻撃目標ハ戰艦又ハ空母ニ敵スヘキヲ指示セシ爲目標搜索ニ没頭シ損害ヲ受ケタルニアラスヤト思惟セラル、モノアリナリ

ノ突入前目標搜索間電探防害片ノ撒布ハ有効ナリ

註 敵ノ對空射撃ヲ電探防害片ニ吸收セシ例アリ

ホ 戰果確認

戰果確認機及隊長機ハ最後迄超低空ヲ以テ執拗機敏ニ行動シ全機ノ戰果ヲ確認シ逐次之ヲ報告スルヲ要ス

又自ラノ突入スル目標確認セハ伴セ報告スルヲ要ス註 復戰ノ戰果確認機ニシテ十八分間 巨リ機敏執拗ニ行動シテ五機ノ戰果ヲ逐一報告シ自己ノ突入



7690

鑑種ヲモ伴セ報告セシモアリ  
 へ航進接敵要領ハ附圖、如ク宜實施スルヲ可トス  
 註 師團特攻隊、大分ハ本圖、如ク宜實施シ奇襲  
 ニ成功セリ

別紙

ノ	機種	天一號
ノ	燃料	作戦ニ伴フ飛行機
ノ	増装	機
ノ	増装	備
ノ	増装	備
ノ	増装	備
ノ	増装	備
ノ	増装	備
ノ	増装	備
ノ	増装	備
ノ	増装	備

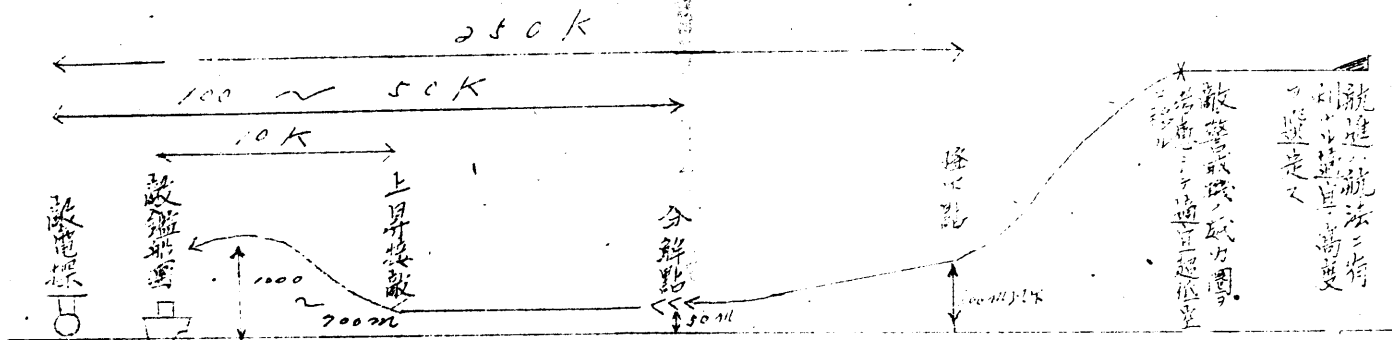
別紙

天一號作戰ニ伴フ飛行機裝備實施要領

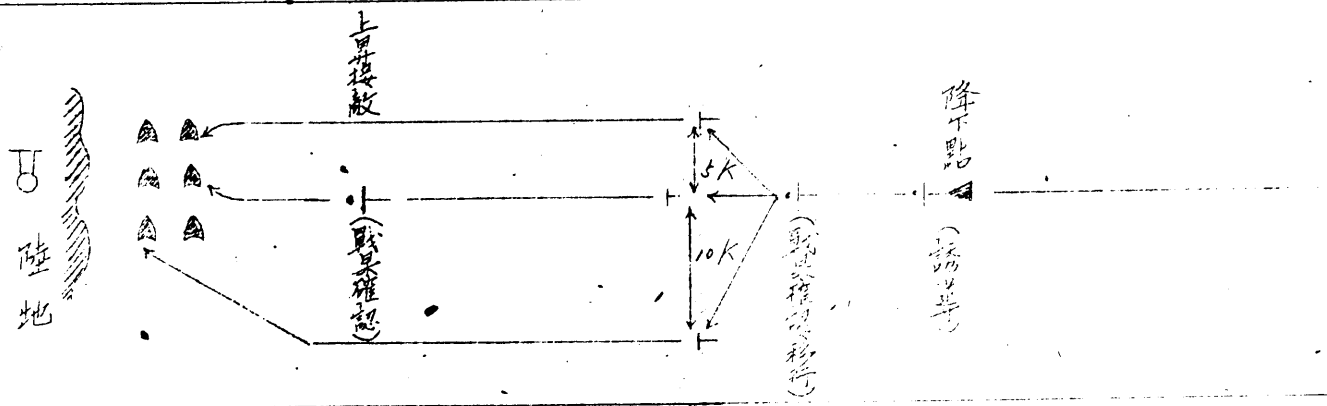
機種	57	43	56	55	27	79	48	45 (夜)	84	61
燃料	608	470	330	330	330	200	1680	1000	697	
増装	① 二〇〇X二(胴体内) — 五〇〇(五〇)X一	② 三三〇X一(胴体内) ③ 右ノ他前線多シクナキ モ、新ニ二〇〇X一	① 一三〇X一(胴体内) ② 二〇〇X一(胴体内)	① 一三〇X一(胴体内) ② 二〇〇X一(胴体内)	① 一三〇X一(胴体内) ② 一三〇X二(翼下)	右ニ同シ	① 四〇〇X二(胴体内) ② 増槽ナシ	① 二〇〇X二(胴体内) ② 四〇〇X一(第三タンク) ③ 二〇〇X三(胴体内) ④ 二〇〇X二(翼下)	① 三三〇X二(増槽ナシ) ② 二五〇X二	① 二五〇X一 ② 一〇五X一
備	臺灣ノ海空攻撃(歸還)可					人否 先島列島ヲ沖線攻撃 臺灣ノ先島列島攻撃)可				
可	可	可	可	可	可	可	可	可能見込	可	可

9690

領要敵接 = 並進行隊攻特，為，擊攻船艦敵



十註  
(誘導並 = 敵果確認機)



天號作戰間ニ於ケル艦船夜間爆撃戰訓  
軍機ヲ以テスル

一、洋上航法ニ関シ

ノ(航法諸元ハ絶對確立スルヲ要ス)

中隊ハ當初操縦者航法ヲ呈トシ無線ニ依ル前  
進歸來ヲ補助シタルモノ宮古島ヲ方探ハ空爆ノ  
為機能不良トナリ且ツ宮古島ハ山ナク殆ンド  
雲ノ影ト島トノ判別ニ苦シム狀況ニシテ月明視  
程五〇ノ距離度ノ夜間ニ於テ八十軒迄近接セザレハ

島ヲ發見出來ス  
然レ島ノ目最大長四。斤目標迄ノ距離三〇。斤  
ナルヲ以テ左右ニ度半ニシテ島ヲ外シ基地ニ歸  
還シ得サル者アリ

ス(投下目標灯ニ依ル尾部編流ハ極メテ有効ナリ)  
以上ノ狀況ニ於テ急速ニ尾部編流法ヲ實施セ  
ルニ極メテ簡單ニシテ精度一度以内ノ好成绩ヲ修メ  
航法ニ依ル損害ヲ絶無ナラシメタリ  
備考ノ投下時及測定時ハ正シク保針スルコト

最モ肝要ナリ

ス編流五度以上ノ場合ハ一度一〇度以  
上ノ場合ハ二度増加ス

對地速度ハ三針路ニ依リ風點ヲ決定セ

サレバ求ムル方途ナシ

ヨ(戰鬥後進入セル基點ヲ確實ニ標定シアルコト最モ要  
ナリ)

攻撃離脱後ハ敵兵器ノ追射ニ依リ攻撃點ヨリ直路  
歸還スルコト通常困難ナルヲ以テ歸還時航進發起

點ニ關シテ充分慎重ナル考慮ヲ要ス  
々(島ヲ發見シ得サル場合ノ處置)

島ヲ發見シ得サル場合ニ於テハ他ノ島ニ歸還シ得  
ル場合ヲ除ク豫定到着時間トナラハ投下航法目  
標灯一個ヲ投下シ之ヲ基點トシ五分從來ノ方位  
ヲ以テ前進ニ爾後九。度變針ニ依リ五分毎ニ四切  
形ニ飛行スルトキハ發見ノ算火ナリ此ノ際第ニ前  
ニ於テ右ニスヘキマ左ニスヘキマハ現在迄ノ航法諸ニ  
ニ依リ決定ス

々(其ノ他)

敵夜間戦闘機ノ洋上哨戒ハ概ネ雲上トナリ又此  
電波兵器ノ捕捉ヲ逃ル、為航進高度ハ為シ但  
レハ一〇〇米以下ヲ可トス

ニ夜間艦船攻撃(爆撃)ニ就テ  
ス(攻撃法)

中隊ニ於テハ一〇〇〇〜七〇〇米墜降下角約三上  
度五。米以下(但シ實際ノ投下高度ハ七〇米附  
近トナル)超低空離脱ヲ實施シアリテ現在迄今

彈命中ス

ス(敵對空火器ハ恐ルニ足ラス)

右攻撃法ヲ以テ航進中又ハ停泊中ノ約二十乃至三十隻ヨリ成ル敵混成艦團ニ對シ單機ヲ以テ突入シ相當猛烈ナル射撃ヲ受クルモ現在迄ニ敵火ノ多ク體當リ自爆スルモノ一機ノミ被彈機モ謹少リ

單排氣改修後ニ於テ敵對空火力約三分ノ一ニ減少セリ

ヨ(敵艦ハ相當ノ回避運動ヲナス)

照準セシメシ敵艦ハ通常對空射撃ヲナサズ巡洋艦驅逐艦級ニ至リテハセロ〜五〇ノ約一〇秒間ニ約九〇度ノ方向變換ヲナスヲ以テ必ず船體ノ軸線ニ突進スルヲ要セス

且ツ艦ハ最後迄確保シ過度トナラサルコト及ヒ命中自信ナキ場合ニ於テハ必ス近彈トスルコト必要ナリ  
又離脱方向ハ進入前ニ於テ研究シアルコト必要ナリ  
離脱超低空ニ於テ敵艦ノ位置不明ナリ敵艦彈先